



高名 祐美

元旦に発生した能登半島地震。発災から5ヶ月が過ぎようとしている令和6年5月25日。団士郎さんのトークショーが石川県金沢市で開催された。金沢市では、市内に1.5次避難所、二次避難所やみなし仮設などで能登の住民が避難生活を送っている。会場となった「金沢市福祉用具情報プラザ」では「あつまらんけ〜のと」というネーミングで、避難者への支援物資配布やカフェ、社会福祉士による相談対応を行っている。その「あつまらんけ〜のと」のスペシャル企画が、団さんの家族漫画展とトークショーのイベントだった。

当日は避難生活を送っている方、そして支援者など34名が集まり、1時間半のトークショーを楽しんだ。もちろん私もそのひとりだ。また会場には10点の漫画掛け軸が展示され、来場者の目を楽しませてくれた。団さんの漫画を掛け軸で読むことは初めてで、本で読むのとはまた違った読み応えだった。

5ヶ月たっても能登の町並みは、発災当時と様子がほとんど変わっていない。二次避難所やみなし仮設の人々は、見知らぬ土地でつながる人も居場所も少なく、これからの生活をどうしていくか、辛い選択に心悩ましている。団さんの「災害は人命だけでなく様々な物を奪う。何もかも失われたような喪失感に打ちひしがれる。でも本当はなくなったのはモノだけ。わたしたちの中にある記憶や思い出は奪われては

いけない。」というメッセージに心が動いた。未来の自分の物語を語り、今自分ができることを考えて、固まってしまった物語から自分をときほどしていこうと思った。団さん、ありがとう。

父が自分の身を呈して
教えてくれたことⅢ
P204～

水野スウ

3ヶ月ごとのマガジン原稿、さあ、そろそろ書き出そう、と思っていた矢先、すべって転んで顔をうち、数日間は頭がぼわ～ん、考えまともらず、早々に今号の原稿はお休みすることに決めました。

念の為、はじめて受けてみたMRI検査。いろいろな音がするのでびくつきしないように、と事前に説明はうけていたけど、頭の上からいきなり、ずんずんっ、ポコポコ、ドコンドコン、パチパチ、とさながらテクノポップ。坂本龍一さんだったら曲がつくれちゃうなあ、なんて思ってるうちに検査は終わり、脳内のどこも異常はないようで、まずはひと安心。

原稿を提出しない代わり、お知らせを一つ。56号にも登場した、石川県野々市にある野菜とフェアトレードのお店「のっぽくん」。能登半島地震が起きた直後から何度も能登に足を運び、刻々かわっていく被災地のニーズをキャッチしてはSNSで発信してくれているのっぽくんが、このたび、能登への想いをつなげる手立ての一つとして、「NOTO, NOT ALONE 能登は、ひとりじゃない」というロゴの入ったトートバッグの販売をはじめました。定価2600円のうち、1400円が能登への寄付金になります。

バッグを縫うのはインド、ムンバイのスラムに住む女性たち。京都のフェアトレードの会社、シサム工房さんを通して輸入、プリントされる、正真正銘のフェアトレード商品です。

しっかりした作りのおしゃれなこのバッグ、使いやすくて私も愛用しています。能登半島地震に関する報道は全国レベルで激減していて、「私たち、もう忘れられてるみたい」という声も能登から聞こえてくる。とても胸が痛いです。どんな小さなことからでもいい、どうか能登を忘れないで、そして能登と長くつながってくださーいね、と願っています。

「NOTO, NOT ALONE」のトートバッグのお問い合わせやご注文は、のっぽくん ☎
076-246-0210
<https://noppokun.co.jp>



きもちは言葉をさがしている
休載

馬渡 徳子

能登半島地震発災から4ヶ月半を経た。3月中旬には1.5次避難所に子どもたちがいなくなったことから、私たちキッズスペースのメンバーの活動は二次避難先で生活する子どもたちとその保護者支援と、能登地区で生活する子どもたちの放課後の生活支援が中心となった。

春休みには緊急学童保育所が開設し、私は保育にあたった。そこで、なんと偶然にも教え子に出逢った。金沢大学卒業後は地元の自治体職員として働き、その後外国生活を経て地元に戻り、市議会議員を務めておられた。なんと、市議会には、もう一人若い金沢大学卒業生がおられ、ともに幅広い世代の市民のニーズ実現の為に奔走しておられることを知ることとなった。お二人は、学部は異なるが、金沢大学のフィールドワークとして、またサークル活動として能登半島を度々訪れていた方々であった。

任務を終えて別れる際に、「先生が成人祝いと下半期授業の最終日に唄ってくれた『憲法13条の唄』(水野スウ作詞)を覚えています。目標にしています。」との言葉をいただき、胸が熱くなった。

若い世代の彼らのあり様に接し、日頃政治に対して文句ばかり言っている自分を

恥じる機会となった。

無性に、団士郎さんと早樫一男さんに逢いたくなった。いしかわ家族面接を学ぶ会の事務局メンバーも同じ思いだった。

その思いは届くこととなり、団さんには 5 月に漫画展・トークショー・研修会、早樫さんには 7 月に研修会にご来県いただけることとなった。

この企画に多くの県民にご参加いただきたいと心から願っている。どなたにも、自分自身のストレングスに改めて気付いて、エンパワーメントされる機会となりますように。今回、本文をお休みいたします。

馬渡の眼 休載



乾 京子

後期高齢者の割には、忙しい毎日を過ごしています。集団に属することが嫌いで、マイペースがいい。そうって憚らなかったのに、いつしか関係する団体の一員で、しかもいろんな集いの企画やら、雑用係やらと仕事はどんどん増えていきます。いつしか手帳の空欄が埋まっていき、この4月、5月はこれらの総会が目白押し。集いの記録集の編集などという慣れない仕事も飛び込んできました。おまけに免許更新手続きの前に後期高齢者運転免許更新講習会なるものも飛び込み、なんと認知機能検査なるものもあるとか。友達にネットにその例文が出ているから練習しておいた方がいいよと言われ、少々予習。お蔭かどうか、認知機能も運転技術も「大丈夫ですね。確認もちゃんとできているし、安全運転でどうぞ」と無事お墨付きをいただいた。もうしばらく車の運転ができそうです。45歳で免許を取ってから30年、滋賀県内は言うに及ばず、京都、兵庫、信州、北陸、四国、両親の介護で鳥取の往復とこの30年、よく走りました。父の7回忌に

車で帰ろうかなあと言ったら、弟妹、息子たちからブーイング。「電車にしといて、高齢者の運転は顔を見るまで心配だから。と言う訳で、電車で帰省してきま〜す。

じやりんこ文庫 P250〜

宮井 研治

相変わらず、日常の面白さの中心的事象は、孫である。言葉が増え、世界に対する彼なりの認識の仕方が変わっていくのを、見せてもらえるのは幸せなことである。同居しているわけではないので、日々見せてもらえるわけではないが、その分発見も多い。周囲の人への順位付けがはつきりしてきた。「ママ」「パパ」は最高位にある。その次は、順当であれば「ジジ」がくるはずである。でも、彼の言葉や扱いからそうではないことが最近のはつきりしてきた。両親以上に遊んであげていると自負している「ジジ」であるが、「パパ」の扱いが「ジジ」より丁寧であったり、あろうことか新参者の保育園の先生が、好きな人順位において「ジジ」より上位に来るようになったりしてしまっている。由々しきことである。しかし、オママゴトでこさえたハンバーグを、目の前のジジを通り越して、母親のもとに運ぶ孫をみていると、愛着の優先順位がきちんとできてくると、ホッとしたりするのである。爺馬鹿である。ちなみに、彼の重機好きは今も続いているが、最近はその「オママゴト」が加わっている。多様性である。

今回は、私の数少ない師匠筋のひとり、岡田隆介さんについて書かせていただいた。この対人援助学マガジンにも、現在はお休み中であるが、長らく執筆されてきた児童青年精神科医である。ファンの多い人であるが、私も岡田さんの治療スタイルやスキル、考え方を自分なりに自分の臨床に取り込んできたと思う。支えられてきたと言っている。いつか文章にしたいと考えていたのうれしい。では、お読みください。

人生は対応のヴァリエーション P245〜

内田 一樹

二度目の担任が始まった。新高校1年生。18歳から15歳の生徒に変わることに

は自分の姿勢にとっても大きな変化だ。身体に染みついたクラスナンバーがふとした瞬間、口をついて出てしまいそうになる。今思えば…と前のクラスへの新しい意味づけが、新しいクラスになって接していると出てくる。それでも毎朝新しいクラスの出席をとるとき、自分はこのクラスの担任だと実感する。そしてクラスの子ども達にエンパワーをされる毎日である。

社会科の授業を 対人援助学の視点から P242〜

中谷 陽輔

長男がこの春に小学校に入学しました。入学式では、教室にいるわが子を見るだけで、非常に感慨深いものがありました。その後、4月には「学校行きたくない〜」と朝に泣いていたこともありましたが、5月になってからは「学校楽しくなってきた!」となんとか登校し続けてくれております。

今回は、近年のコソダテにおいて、検討を避けては通れない「スマホ・タブレット」を話題にしました。本文では先行研究をもとにデメリットを強調していますが、実のところ、親としての私は、長男が1歳頃、そのうち使うだろうとタブレットを購入していました。ただ先行研究を調べるほどに、「こんなもん絶対子どもが小さいときに使わせたらあかん…」と確信するようになり、自分自身のスマホの使用も含めて、大いに見直しを図りました(ちなみにタブレットはメルカリで売却済みです)。今となつては、正しく知ること、自分で考えることの大切さを噛みしめています。世の中は、企業が売って儲かるものの広告で溢れていますからね。



そんな折、長男の通う小学校から、GIGAスクール構想の名のもとに、タブレット購入に関するお便りが届きました。学校から言われたら…と思いつつ、家には持ち帰らせたくないんです、と家庭訪問のときに担任に伝えさせていただき、意外とあっさり了解いただきました。

そんなこんなで、私自身、コソダテしながら試行錯誤している最中だったりします。

引き続きよろしくお願いいたします。

コソダテノシンリ

P229～

櫻井 育子

ショウガイハッツ、という「生涯発達」という文字ではなく「障害」という字を書かれることが多く、わざわざ伝え直さなくてはならないこの不具合にそろそろ屋号を変えようかなあ、など感じているこの頃。そもそもそれほど大きなことをしているわけでもなし、何をしてもどこにいても限りなく自由なのだ、この身が、ということを考えてことが増えた。こうした思考や安定しない心理状態であることにはもう随分と慣れていて、思えばこれまでの人生で「安定している」などと味わったことはない。しかし、これは誰もがそうなのではないか。あるいは、「不安定であること」が不安すぎるので病気になるいは、我を忘れて働き続けるか、何かに夢中になったつもりで正義のままに活動していくか、なのかもしれない。ぼんやりと、何もしない自分をゆるす。できないことを見ないのではなく、できないことは、誰かに頼む、ができればいいだけだな、と思う。

今回の連載はさまざまなことが重なってしまい、無理せず「おやすみ」をした。無理をしない、がまんしない、気にしない、は我が家の家訓なので、これらの実践者として生きていこうと思っている。

shukou0122@gmail.com

<https://ikuko-sakurai.com>

わたしはここにいます

連載

鳴海 明敏

県庁職員を定年退職した翌月に新規開設された、情緒障害児短期治療施設（現在は、児童心理治療施設）の園長を引き受けてから、15 年目に入っています。

園長室には「こかげ」という名前がつけられています。ということで、サブタイトルは「こかげのにちじょう」とします。紹介する子どもたちについては、それなりのカモフラージュを施しています。

児童心理治療施設は、現在全国で53か所が運営されています。その全児心協議会の全国施設長会議が、2024年5月

15日～16日横浜市で開催されました。こしばらく新設がなかったのですが、来年度は新設施設がありそうとのことでした。

会場は、横浜市中区の技能文化会館でした。関内駅を降りて、お昼を食べるところを探してウロウロしているうちに、どきこんだお店が、ちょっと風変わりなお店でした。

入口に頭を突っ込んだら、黒いTシャツを着た体格のいい厳ついおじさんと目があってしまいました。この雑然とした感じはなんだろう、別のお店なのかなあと感じつつ、いいですかと聞いたら、はいどうぞというので、身体を店の中に入れたのですが、なんか様子が違う感じがしたのですが、もう引き返せない感じで、これは店選びを失敗したなあと感じながら、カウンターの椅子に座りました。

薄暗い奥の方を改めて眺めると、店の奥の広いスペースにフロアマットが一面に敷かれていて、壁際にはサンドバックが何本もぶら下がり、赤や青の防具もおかれています。空手の道場だったのです。

いまさら逃げ出すわけにも行かず、覚悟を決めてカレーを注文しました。カレーを作っている先ほどのおじさんと話してみると、穏やかで意外といいおじさんでした。空手の道を究めようと、空手一つ筋で努力をしてきて、ようやく道場を持てたけど、経営が苦しいので、副業として食堂や輝石のプレスレットの制作・販売をしているのだそうです。さらに話しているうちに、お互いの奥さんが同郷であることも分かり、一気に親近感が湧いてきました。

私が横浜に来た理由を話すと、道場に通ってくる子どもたちのなかにも発達障害の子どもがいることや、刑務所を出てきたばかりの人や生活保護受給者の居場所にもなっているということでした。

児童心理治療施設の園長室から

～こかげのにちじょう～

P227～

高木 久美子

ついに念願の査読付き論文を「対人援助学研究」学会誌に投稿しました！お世話になります。ヨミトリ君開発者の岡田浩さん（一般社団法人 愛知情報教育支援協会）を筆頭著者として、増尾明さん（星城大学）と高木（東海地区遷延性意識障

害者と家族の会「ひまわり」の共著です。重度の障害により、言葉を発しているのにそれが届かないことに苦しんでいる方々の、その覚醒が論文を通して広く社会に認知され、双方の希望となることを願って書きました。どうぞよろしくお願い致します。

ヨミトリとヨミトリ君で一緒にしましょ！

P222～



野中 浩一

今年から、主催するフリースクールの中で、「ゲーム部」を発足した。生徒たちと話し合い、ストリートファイター6、大乱闘スマッシュブラザーズ、ぷよぷよテトリスの3種類のゲームでお互いを鍛え合い、年に1度は大会に出ることを目標としている。

部の名前をゲーム部としたのは、小学校2年生のファミコンのときからゲームに親しんでいる私なりのこだわりである。近年は「e スポーツ」という名前が世間に浸透するとともに、様々な学校にe スポーツ部が勃興している。競技としての側面を打ち出すとともに、学校の部活としては、ゲーム好きの生徒を呼び込む狙いも感じ取れることがある。

しかし、私が好きなのはe スポーツではなくゲームである。ゲームをダシに生徒を呼び込みたいのではなく、今いる生徒と一緒にゲームを楽しみたいのである。40年に渡りゲームに親しみゲームを楽しみ続けてきた私としては、ゲームの一部が競技化したe スポーツではなく、それらも内包する全体としてのゲームを打ち出したかったのである。親しんだゲームの名前を掲げて、ゲーム好きなメンバーと一緒に、ゲームを本気で楽しむことを部活にしたいとの思いを込めて「ゲーム部」とした。と、冒

頭からどうでもいいこたわりを語ってみる。

「島根の中山間地から Work as Life」 P217～

畑中 美穂

幾つか請け負っている仕事の一つをこの春を機に辞めた。大切に想ってきた仕事だったので散々迷ったが、事情には勝てずやむなし。しかしそうと決めてから、「それを覆うくらいのことがないかね」と思い、新しいことを始めた。好きなこと・ずっときちんとやってみたかったことであり、今、その道を歩み始めたことを感じる。

“こころは器のようなもので、ひとつ空間ができたならそこに新しいものが容れられる”。

本当にそうだなあ、と思う。“器”のなかにどのような色、カタチが広がっていくのか。楽しみである。

一語一絵
P208～

渡辺 修宏

時々、長くあっていない友人のことを思い出す。そして、その友人が自分にしてくれたことを思い出す。あの時、あの人が、ああしてくれたから、自分はとても助けられたのだと、再確認する。友人に感謝する。きっと友人がいなければ、私は今ここに、いなかっただろう。些細なことだけど、とてつもなく大きなことをしてくれた友人に感謝してやまない。

対人援助実践をリポートする
この一冊
P213～

米津 達也

今年で 47 歳になる。同い年のクライアントと出会うし、周囲の友人も俄かに 50 手前で病気の心配をし始めている。無事に 50 歳を越えられるだろうか。この歳になって、クライアントとの面談でこう尋ねることが増えた。「人生に後悔はないか？」もちろん、答えは様々。そんな答えを聞きながら、人生というものが有限であることを実感している。

川下の風景
P200～

玉村 文

2024 年 4 月 18 日に第3子を出産しました。37週6日で出産、3336g の男の子でした。子どもは 3 人までと決めたこともあり、妊娠出産は今回で最後。産育休も最後。最後なので、3 回目の帝王切開について記録しておこうと思い、まとめました。

「自分の帝王切開を見た」という記事は医師で漫画家のさーたり氏の漫画で読んだことはありましたが、まさか今回自分もそれを体験できるとは。気分はブラックジャックのようでした。

最後の産育休の今年度、家族メンバーも確定したので、家づくりをしったり仕事以外の活動にも挑戦しようと計画しています。

応援 母ちゃん！
P192～

川畑 隆

編集長が「どうぞどうぞ」と言ってくださるので、『ザイコロジー』の前に連載していた『かけだ詩①～⑫』を本にすることにしました。『児童相談所から教わった～職場でのエピソードの回想と六十五歳からの詞集』というタイトルで、第一部に「駆け出しからのエピソード記憶」として児童相談所勤務時代のことを書き、第二部に「詞集～何か知らんけど教わった」として『かけだ詩』を納めました。



まあ舞台が職場とはいえ自分史と詞集ですから、出版の社会的意義は高くはないということになれば自費出版です。でも調べてみたら結構高くなります。そこで私の前に現れてくれたのが、アマゾンからの無料

のオンデマンド出版。電子書籍ではなく紙の本を注文に応じて印刷して送ってくれるというもの。アマゾンのサイトに載るわけですから宣伝にもなります。本の値段も自分で決められます。そして、原稿の編集や出版の手続きなどを代行してくれるサービスがまたあって、そこに依頼しました。安価ですが丁寧にサポートしてくれています。今月のうちには発売になると思うので、アマゾンのサイトを覗いてみてもらえたら嬉しいですよ。

ザイコロジー
P187～

杉江 太郎

児童の分野で相談業務をしている杉江と言います。4月から新しい支店が出来て、少し小規模化しましたが、カフェの売り上げはさほど変わらないようです。とは言え、収支など一切把握していない、いつでもニコニコ現金払い、セルフ式のため、あくまでも感覚的なものですが。そうしたカフェでも、毎年恒例の、サクララテ味というものがあるのですが、これがまあお客様に不評で、でも、毎年3月～4月頃のその味を忘れた頃に発売されるので、また買ってしまい、結果、また不評で、在庫過多になってお客様に配り出す・・・ということをこの数年繰り返しています。ただ、このやり取りを続けていると、「今年も買ったの？」「美味しくないのに」「いやいや今年のは一味違うはず」なんていうようなやり取りが生まれ、コミュニケーションを活性化させる起爆装置に貢献しているのではないかと思うようになりました。また来年も懲りずに買っているのだろうなあ。

「余地」-相談業務を楽しむ方法-
P180～

浅田 英輔

われらが弘前大学に、公認心理師の大学院が設立された。以前は教育学部に臨床心理士の養成課程があったが、事情により閉鎖となってしまっていた。それが平成28年ころとのことで、8年ほど間が空いて、これから青森県からも公認心理師が生まれることとなった。設立記念公開講座が3回シリーズで開催される。私もお呼ばれしています。お近くの方はぜひどうぞ。

<https://www.cps.hirosaki->

三浦 恵子

令和6年1月1日の能登半島地震の支援に入っている職能団体その他の方々から、ニューズレターその他で現地の状況を伺っています。私自身は家族介護や自身の怪我もあって現地入りできず後方支援に徹している状態ですが、既に喪失感からのアルコール等への依存なども報告されており、物的支援だけでは埋められない「喪失と孤立」へのケアの必要性を再び認識しています。

ちなみに、阪神淡路大震災当時、駅舎ごと高架が落下するような甚大な被害を受けた神戸～大阪を結ぶ交通の大動脈であったJR線は震災発生後から2月半で復旧を果たし、東日本大震災時当時では、震災発生後からわずか1月余りで「新幹線リレー号」を介してではありますが東京から仙台までの陸路での移動が可能となりました。

ただ、それらは利用客が極めて多い路線での話であり、例えば常磐線などは、原子力発電所事故の影響もありますが、全線開通までに10年の歳月を要しました。R6年1月1日の地震は、交通の便が悪い、孤立集落が多い地域での発生であり、インフラの復旧の遅れが孤立にますます拍車をかけるのではないかと懸念しています。

更生保護署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

**現代社会を『関係性』という
観点から考える**
P169~

迫 共

「保育の当事者研究会」を毎月1回のペースで始めています。大きなきっかけは昨年の対人援助学会広島大会のシンポジウムでした。登壇した西川さん、南部さんと迫が呼びかけ、「保育現場での困りごとをもてなす場」をオンラインで開いています。困りごとが解決するときもありますが、それは目指していません。「困りごとをじっくり眺めること(=研究)」を楽しんでいます。現状では保育関係者が少なく、看護や福

祉の領域の方が多いです。興味を持って下さった方は、ぜひお問い合わせください。
追メアド：sakotomoya@gmail.com
保育と社会福祉を漫画で学ぶ
P175~



黒田 長宏

心臓リハビリテーションをしていない病院が手術先だったため、本から独学で、と言うか勘だが、1万円のエアロバイクは思った以上に使えて、休日には朝食前に25分間、昼食前に25分間。夕食前に15分間こいでいる。エアロバイクにも心拍数機能がついてはいるのだが、胸に巻いてスマホと連動させるアプリを見ながら運動している。急性心筋梗塞の再発が怖いので、この運動は休日中に必ずやっている。やらないと再発してしまうのではないかと不安感からである。だが、設定も独自だし、効果のほどもわからない。地上波やBSだとつまらない時間帯にこぎたくなってしまうときもあり、なんだか時間がもったいないので、以前のNTT西日本開発の装置が壊れてしまったので、amazon fire tv stickをテレビに付けて、YouTubeでも動画サービスでも観ながらこいでいる。人によっては外に出て周囲を散歩するのだろうが、私にはそれが嫌なのだ。

<https://konnankyuuujotai.jimdofree.com/>

ああ結婚
P149~

松村 奈奈子

今年の春の旅は初めての下北半島と津軽半島。本州の北端はなかなか人を寄せ付けられないワイルドな自然の風景が美しい。津軽半島の先端には青函トンネル記念館があります。ケーブルカーで海面下140m下の坑道見学では、トンネルは複雑な構造で「よく昭和の時代に、こんなもの

を作ったな!」と感動しました。

一方、半島沿いの道には、人の住まなくなった昭和の建物がたくさん目に付きます。泊まった温泉街も、半数の旅館が閉業して、時が昭和で止まったままの街並みでした。半島の町々について検索すると、どちらの半島も人口減少率は高く、人口がどんどん減っているようです。半島の海岸沿いをドライブしながら、変化していく集落を見て、いろいろ考えてしまいました。

精神科医の思うこと

P124~

団 遊

自宅近くに、美容室というよりは理容室に近い素朴なカットハウスができた。

一度行ってみようと、散歩がてらフラリと出掛けた。20分ほど歩いてドアを開けると予約の有無を聞かれた。「待ちますよ」と言ったのだが、予約が基本らしく、諦めて帰路についた。

仕事はアポだらけだけど、普段の生活には極力「予約」を入れたくないと思っている。そんな中「街外れの理容室までが予約か」と思ってしまう。これはまったく個人の見解だけれど、予約をすると、「行きたい店」や「行きたい場所」が「行かなければいけない店」や「行かなければいけない場所」になる気がして、多くの場合、行く気が失せる。予約した時が一番行きたいときで、当日になると、面倒になることが多い。

先日、有志メンバーたちで主宰するとある集いの誘いに「行けたら行く」と回答した人がいて、「それなら来てもらわなくていい」という流れになった。準備にそれほど寄与できていないことへの遠慮もあり、強く意見はできなかったが、個人的には「それ分かるなあ」と思った。朝起きて、行きたいと思ったら行くし、そうでなかったら行かない。そんな風に変えられるのは、もはや散歩くらいなのではないだろうか(散歩も歩数目標を決めている人もいる)。

「仕事終わりの一杯」なんかも、前々に決めた会食は、結構な確率で当日面倒になる。道でばったり再開したとか、たまたま遅くまで仕事をしていた仲間と、などと思いきのように行った先での一杯ほど格別なものはない。二度とない貴重な時間

を共有できている気がして、とても嬉しい。
人生の楽しみは偶発性にあると思うんだけど、予約社会は大変だ。

団遊の脱線的経営言論

P 30 ~

村本 邦子

楽しすぎた 1 年間のサバティカルが終わり、4 月から職場に戻ると、責任の重い仕事や頭を抱える手のかかる仕事など、いろいろと負担も増えた。が、1 年をあまりに楽しく過ごしたせいなのか、何を隠そう、実は仕事が楽しくてたまらない。パワーありすぎて前のめりになり、頭がいつも忙しく、朝早くから眼が覚めてしまって睡眠不足気味だ。自分でもちょっとこれやばいなとブレーキかけよう努力中。

周辺からの記憶

—東日本大震災家族応援プロジェクト—
P98~

國友 万裕

今号からいよいよ連載をリニューアルしました。

基本的な部分は変わらないのですが、これから 60 代なので、身体性や老い、食事やファッション、生活やスポーツを中心に歳を重ねていく様子を綴っていきたくので、あえて連載のタイトルを変えました。

ちょっと宣伝になりますが、前回まで連載していた『男は痛い！』に関しては、新刊『インセル時代の男たち 弱者男性で読む日米映画』で、所々抜粋しています。これまで連載に関心があって読んでくださっていた人は、ぜひ、本を読んで欲しいです。まだ値段も発売日も決まっていませんが、もうすぐ出ます。

これからもご支援ください！

スポーツおじいさんになりたい！
P69~

西川 友理

この春から、大阪キリスト教短期大学で働かせていただくことになりました。新しい環境でも、保育士・幼稚園教諭の養成をさせていただいています。新たな繋がりが出来たり、新たな活動が生まれたり、その一方で長らく続けさせていただいていることにもゆったりとした変化が生まれ、今年

度は毎月のように小さな挑戦がある年です。

頑張らにやあ、と張り切って約 1 か月、やらかしました、久々の 9 度近い発熱です。幸い、コロナでもインフルでもありませんでした。「のどが真っ赤になって、微熱が 1 週間くらい続くからね。2 週間くらい前から、こういうの流行ってるんだよねー。」と言うお医者さん。「はあ、で、結局何なんですか、この病気」と聞くと、「わかんない」とのこと。「なんかねえ、今までの感染症の常識が通じなくなってる。昔は冬場に流行っていたインフルが、今は一年中見受けられるし、夏場のプール熱が、冬場にも頻繁に見られる。一つはコロナの影響で、昔なら受診しなかった体調不良でも、みんなすぐに受診するようになってきたから、今まで見えてなかった疾患が見えてきたってことかもしれない。とにかく、コロナ以降、あらゆる感染症の常識が変化して、僕たち医者もついていけないところがあるんだよねえ。」とのこと。とりあえずロキソニン出しとくから、様子見てねーと言われ、見事に 1 週間ほどで微熱が収まりました。社会のあり方が変わると、思わぬところの様相も変わります。自分の体や心と仲良くしながら、変化の多い一年を乗り越えていきたいと思います。

福祉系対人援助職養成の
現場から
P58~

竹中 尚文

4 月の初旬にお寺の庫裏の天井裏にアライグマが住み始めました。周囲の人たちに「絶対に手を出してはいけない。大怪我をするよ」と警告を受けました。大声で、早く出て行くようにいうのですが、いつの間にか子どもを産みました。天井裏をノッシノッシと我が物顔で歩く足音は、連れ合いが廊下を歩く音が変わりません。私は連れ合いと間違えて天井越しにアライグマに話しかけるということが度々あります。アライグマにとっても居心地のいい我が家ようです。子どもたちが自立をすると、出て行ってくれるでしょう。切に子どもの自立を願っています。

路上生活者の個人史
P67~

坂口 伊都

最近、字を見るのが辛い。それは、老眼だから。カードの番号を記入してくださいと書かれていても、文字が小さすぎて見えない。拡大鏡で確かめて、PC 画面を見ると歪んで見えて面倒くさい。で、はまったのがオーディブル。いろいろな人が「いいよ」というので、年末休みから始めてみました。

聞いていられない人の声もあるけど、好きな語りの声は、世界が広がって没入できます。『スピノザの診察』が面白くて、夏川草介氏の作品を探したら、『神様のカルテ』シリーズがありました。内科医の一止さんが夏目漱石の『草枕』を白衣のポケットに入れている変人医師という設定で、シリーズの合間に『草枕』を聞いて、満足度が上がりました。文章で読んでも頭に入っていない時がありますが、オーディブルは語りが心地いいと聞き入ることができます。そして、荷物にならないのがこれまた嬉しい。いい時代だなあとthinkながら今日も聞き入っています。

立場が変わると何が見える
P93~



河岸 由里子

【引きこもり青年との再会】

調子の波があって、1 年ほど札幌でのデートが延期になっていた。その間は zoom で面談を続けていた。面談と言っても病院でカウンセリングを受けているので、30 分くらいの雑談だけである。画面を通じていた彼は、相変わらずやや太り気味の丸顔で、変化はわからなかったが、今日 1 年ぶりに会ってみたら、すっかりほっそりして、眼鏡も金縁から黒っぽい縁のものに変え、髪も少し格好よくまとめていて、素敵な青年になっていた。画面だと太って見えるのだなと感じた。

また、今日は13時半に待ち合わせだったが10時半くらいにメールで、「今日は行けそうですから予定通りで」と連絡までくれた。今までは、私が着いてから遅れてくるので、来るのか来ないのかとやきもきしたものだ。今日は私より少し早めに来ていて、私も時間前についたのだが、似ているなと思いつつあまりにも違って見えたので気づくのにかかかってしまった。

以前は出来なかったことが少しずつできるようになってきたという。自分で床屋さん予約を入れるとか、病院の予約を入れる、病院受診に電車に乗って出かける等々。こうしたことが自分一人の力でできるようになった。今年で29歳。15の時から引きこもって、そのまま時間が止まっていたが、少しずつ大人に近づいてきている。就職についても考え、通信制大学に行くか、働くかなども考えている。まずはデイケアに通って生活リズムを整え、その後就労について考えていこうと伝えた。焦るところで失敗する。ゆっくりでよい。病氣も持っているのだから、障害者就労でも良い。勉強したいならそれも良い。広く、ゆったりと考えよう。30分ほど喫茶店で話し、その後駅の近くで立ち話が30分くらい。立ち話の方が盛り上がるのが面白かった。面と向かうと緊張してしまうのだろう。1時間余り付き合ってから別れた。今回同様、自分からまた札幌で会いたいと言ってくれるのを待とう。必要なサポステに案内するのもありかな？そんなことも考えながら、ちょっとうれしい1時間だった。

公認心理師・臨床心理士・北海道

かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

ああ、相談業務

P62～

先人の知恵から

P139～

大谷 多加志

前号が発刊されてすぐの3月末に、家族で台湾に出かけました。いろいろ面白かったのですが、その中でも印象に残ったのが、建物の外観の雑多さです。古い建物はほとんどベランダがないのですが、各家庭が独自に出窓のようなものを設置しており、植木鉢がおける程度のものから、エアコンの室外機の設置スペースや、果

ては小型のベランダを付けて洗濯物を干している家庭まで、その形態は本当にさまざまです。その分、見た目は悪いというか不規則的で雑多なのですが、なんというか、生きていくエネルギーのようなものを感じました(出窓の植木鉢から水が落ちてきて慌てて避ける、ということもありました)。歩道へのバイクの駐車や、路上喫煙などもアリで、何となく20-30年くらい前の日本の街中のような風景でした。帰国した日本は、マンションの外観も整然としていて、道にもゴミはなく、とても清潔です。一方で、「誰かに迷惑にならないように」設計された日本の町はとても弱々しく見え、静かに日本が衰退していっていることとも重なって見えました。そんなことを言っている間に、4月には台湾でも地震があり、建物が倒壊する事態もありました。付け足されたベランダは耐震性の問題もありそうですし、実際、台湾でも新しく建造中のマンションは、日本と同じく予めベランダがある、整然とした外観をしていました。台湾もひょっとすると日本と同じ道に入りつつあるのかもしれない...と思いつつ、それぞれの国の10年後、20年後に思いを巡らせています。



発達検査と対人援助学

P86～

鶴谷 圭一

少子化の波を顕著に受けています。今年度は弊園を含め「幼稚園、幼稚園型認定こども園」という3歳以降の子どもたちを対象とした幼児施設の園児はぐっと減りました。幼保連携型こども園や保育園は、まだ大きな波は受けていませんが、地方では待機児童も解消し0歳児の入園児数がじわじわと減っています。園児は少ないのに、保育者の人手は必要

になってきています。手のかかる子どもが増えているからです。困っている子どもが増えているから、個々に丁寧に育てていく必要があります。子どもは動物と違って本能では育てられないんですよ、それを伝えていかなくてはならないこの頃です。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ haramachik

ツイッター haramachikinder

幼稚園の現場から

P55～

中村 正

定年退職は思ったよりも解放感がある。大学というところはそれほど縛りがあったのだろうか。定期的な会議や義務がなくなるということが解放感の大もとにあるのだが、もちろんそれなりに仕事をしてきたという満足感や充足感もある。くわえて、いままでやってきたことを事業化するための一般社団法人 UNLEARN を創業したこともあり、ワクワク感が強い。特任教授なのであいかわらずこの創業は兼業であるのだが、本業と区別がつかないくらい一体化しているのでやりたいことができるという感じが強い。それと単に暴力や男性のことを対象にした事業をやるということだけではなく、カフェと協働することになったのでその高揚感が大きい。若い人たちがこれまでのネットワークがそうした事業に活かしていることも嬉しいことだ。今年一年は、事業予算の確保や拠点としての事務所作りに精を出す。

臨床社会学の方法

P20～

団 士郎

病院のギャラリーで掛軸漫画展を開きたいと打診された。依頼者の希望する作品を三作発送しておいたが、予定日になっても展示の報告がない。問い合わせたら、内容が政治的だということで一日で撤回になったという。

面白いことが起きるものだ。確かに作品が時代の政策傾向に批判的には描かれている。しかしその見解が展示を拒否されるようなたいした中身とは思えない。「規制緩和」と題した当たり前の疑問について

扱ったものだ。

過剰に自主規制しているのか、ただただ横暴なだけの管理者なのか？展示撤収・中止など、作品の中身よりもその経過が大問題だ！などと言う人もいて、そういう所もあるなあと思った。

しかし主張のためにマンガを描いているわけでもないで、このような巻き込まれ型のトラブルはうっとうしい。面倒な輩に私の時間に侵入されるのはゴメンだなあ。

晩年 D・A・N 通信⑦

P39～

中島 弘美

家族療法の相談機関を退社し、独立して仕事をしはじめたころ、働く女性のネットワークに入会した。この会は、20代から80代の女性が、ゆるやかに支えあい、学びあう、よこのつながりの会で、今年40周年を迎える。支援という面から考えると対人援助学会と共通点が多いように感じる。いつか、みなさんに、ご紹介できるといふなあ、交流ができないかなあと思いつている。

カウンセリングのお作法

P36～

藤 信子

纏向遺跡に出かけた。昨秋行った吉野ヶ里が頭にあったので、なんとなく拍子抜けした感じ。卑弥呼の墓は吉野ヶ里か箸墓か、と言われているみたいだから、整備されていると思っていた。箸墓古墳は、そばを歩いたけれど、確かに大きい。でも宮内庁の管轄だから立ち入れない。入ってもいいと言われても、鬱蒼としている木々を見ると、ためらうだろう。吉野ヶ里に広大な遺跡の建築群を立てることできたのは、もともと国交省が工業団地を造る予定のところに、遺跡が出てきたということがあったからだそうである。纏向のほうは、古墳が沢山あるようだけれど、人家があり畑があるようなところだから、遺跡が出たと言っても、大規模な公園のようににはできないだろう。近くの桜井市立埋蔵文化財センターの方は親切で、定休日だったにもかかわらず、たまたま行き合わせた、我々ともう一組のために、センターを開けてくださった。

解放の心理学へ

P33～

篠原 ユキオ

お気に入りのフレーズ

NHKの朝ドラ『虎に翼』が面白い。これを見ながら若い頃を思い出しているいろいろ反省することもある。

このドラマの中で度々主人公が使うフレーズに『はて』というのがある。相手の発言や行動に疑問を感じたときに使うのだが、これが反発的でも威圧的でもなく、とても自然にふとした疑問を発する言葉として心地良い。

それどころか、言った方には僅かながらの優位性も感じてしまうのが痛快である。かと言って言われた方も反発を感じる事は少なく、お互いに意見を交換する雰囲気も醸し出す。

落語『はてなの茶碗』はひび割れも無いのにお茶が漏れてしまう安物の茶碗を、趣味人が面白がったのがきっかけでどんどん高価な値が付くという噺なのだが、この『はてな』も『はて』の同義語である。

さまざまなハラスメントや対人トラブルが連日のようにマスコミを賑わしているが、この言葉は上手く使えるのではないかと思ったりする。これは今年の流行語大賞の有力候補ではないかな。



HITOKOMART

P196～

鶴野 祐介

最近、絵本カフェを訪ねるのがマイブームになっています。先日は大徳寺の近くにある絵本カフェ Mebae に行ってきました。くつろいだ空間と美味しいランチ、ぜひお勧めです。

うたとかたりの対人援助学

P146～

寺田 弘志

思うツボ

接骨院で患者さんに施術中のことです。

「ここが痛いということは、こっちも痛いんですか？」

「いたたた…わかるんですかー…先生の思うツボですね」

「えー、うまいこと言いますね。30年近くやって、思うツボと言われたのは初めてです」

「へたに触ると、あっちもこっちも痛いですよー」

「大丈夫ですよ。お任せください。ところで「思うツボ」というネタ、使わせてもらっていいですか？」

「かまいませんよ」

「ちょうど対人援助学マガジンに書くネタがなかったんで助かります。ありがとうございます」

本文では「歯科医院に心理学も接骨院も入った」を書きました。

接骨院に心理学を入れてみた

P161～

古川 秀明

スクールカウンセラーに限らず、どんな職業でも理不尽な対応を受け、続けられなくなる可能性はある。その時に抵抗するもよし、すがりつくもよし、去ってしまうのもよし。いずれの道を選ぶにしてもそんな底の時に絶望しないこころの訓練が必要かもしれない。私は長く般若心経に支えられている。

講演会&ライブな日々

P89～

山下 桂永子

この春はバタバタとしているうちにすっかり5月も下旬になり、今年もあと半分になりーちだと思わずとぞっとするようなびっくりするような。そして昨日、見事に完全なぎっくり腰になりました。のたうちながら今朝を迎え、何とかたどりついた職場で壁や机をつたいながら牛歩の歩みで一步ずつ進む私に職場のみなさんがそれぞれに「ロキソニンいる？」「私はボルタレンあるよー」「家が近いから昼休みにコルセット取りにいったあげる！」「足を冷やしちゃだめって整形外科の先生言ってたよ！」「寝るしかないよね。今日は出張なの？かわいそうに」などなど温かいお言葉やお恵みをくださるのです。腰痛コミュニティの結束力半端ない。そして我が職場の腰痛率も

半端ないと思った次第です。特に内容とは関係ありませんが読んでいただければ幸いです。

心理コーディネーターになるために P135～

脇野 千恵

予定通り、4月からフリーな生活が始まった。どこに所属することもなく、自分でやりたい仕事ができることを楽しみたいと思っている。退職となり雇用保険解除のためハローワークに数回通った。今はweb上での求職システムが充実していて、ハローワークに朝早くから並ぶとか混雑はほとんどない。対応も早くスムーズ、社会は変化している。面接で求職意欲があるかと問われると、曖昧に「うんまあ…」と答えておいた。有難いことに、失業給付金というものもらえるとのこと。私の年齢を確認し、「ただ後期高齢者ですので、これ一回きりです」そうだろうな、もっともな話だ。もらえるだけでも有難い。早速求人の新着情報が、頻繁にメール配信されてくる。興味深く求職欄を除くと、65歳以上でも元気に働いておられます！などのメッセージが目立つ。一番多いのは、介護職。次にメンテナンス業、教育では学童・幼稚園・小学校などの補助員。高校の部活動の補助員には少し興味を持ったが、剣道、書道、ダンスなどの資格が必携となると、無理だなあとその気もないのに呟く。求人欄は社会の鏡のよう。聞いてはいたが、仕事は溢れているのに人が集まらない現実。改めてそんな社会の状況を垣間見ることになった。

こころ日記「ぼちぼち」 P202～

岡崎 正明

マガジンでいつか書いたかもしれないが、私の実家は広島で「和食のお食事処」をやっている。ちなみに「お食事処」というのは、私の中で勝手に「食堂」と「料亭」のちょうど中間くらいの形態のお店のことである。

その店を約50年前に始めた私の父は、商売のことや地域の商店街や商工会のことなど、いろいろと活動的にやっていた男であったが、病を得て1年以上前から入院生活をしている。店は従業員さんが切り

盛りしてくれており問題ないが、息子としてアレコレ手続きだの、用事だのと動き回ることもあり、団編集長の言う「家族にはいろいろなことが起きる」を体感させてもらっている。

その流れでこの度、ひょんなことから父の自伝小説を出版する方向で話が進んでおり、父の書いたものに私が手を加えたり、修正したりと結構忙しく準備をしている。今年中に父との共著で出版予定で、まさかこんな形で人生初の出版を経験するとは思ってもいなかった。つくづく家族とはいろいろなことが起きるなあと思う。

もし万が一興味を持ってしまった方は、インスタグラムで「おか半総本店」と検索いただくと、出版に向けた動きが確認できたりする。

役場の対人援助論 P79～

来須 真紀

4月からめでたく職場復帰いたしました。半年前、まさか自分が、体力と気力だけが自慢の私が、バタンと倒れるなんて…。「人生には3つの坂があります。」ではないのですが、「まさかまさか」の出来事でした。とはいえ、この病休中の半年は、今までノーストップで、人生を突っ走ってきた自分を見つめ、家族と向かい合う貴重な時間となりました。この話は、また今度ということで、4月からは、ケースワーカーとして、務めることになりました。がんばります！！と言いたいところですが、また、バタンと倒れないようにいろいろな方にお聞きしながら、ポチポチとやっていきたいと思います。

教室の窓から P240～



山口 洋典

「ホームランを数えてるうちは四番にはなれないぞ。」あだち充先生の作品『タッチ』で、主人公の上杉達也(および上杉和也)のライバル、新田明夫が県大会の決勝で

チームメイト(2年生の大熊)に向かって言う言葉です。手元にある単行本(少年サンデーコミックスワイド版)では、第10巻の第18話「10割だよ」に登場するセリフです。この数ヶ月のあいだ、私はこのセリフをよく想い起こしました。

1月27日に令和6年能登半島地震の支援に現地を訪れるようになってから、5月までに第12回の訪問を重ねてきました。時折「次で何回目ですか？」そんな問いかけをいただくこともあり、そんなときに冒頭のセリフが頭をよぎります。「数えているうちは支援者にはなれない」と断言できるだけの支援を重ねられているかは定かではありませんが、少なくとも支援者側が前のめりになって被災された方々の思いを踏みにじってしまうことは避けねば、と心しております。そんななか、共同研究者である渥美公秀先生らと新潟県中越地震で大きな被害を受けた小千谷市塩谷集落には2019年の時点で288泊以上にわたってフィールドワークをしてきた記録があり、この10月23日で20年を迎える、ということを見ると、忘れ去ることのできない悲しみに思いを馳せ続けることの大切さを改めて感じ入る今日この頃です。

PBLの風と土 P155～

千葉 晃央

30年ぶりに「ぱぴい」として時々活動している。学生時代、キャンプリーダーをしていた。その活動中は、日常との区切りの意味もあるのだろう、全員がキャンプネームをつけていた。当時から、老けていたのでオジサンぽい、オレ。じゃあ、せめてかわいくして…と「ぱぴい」というキャンプネームをいただいた。現在、ぱぴいは「森のようちえん」という事業のスタッフをしている。目的は、自然の中で季節を感じながらのびのびと活動して、五感を刺激するプログラムを行うこと。地域の子育てを豊かにして、家ではできない体験を同じ子育てをしている親子と一緒に共有しながら体験してもらうことを目指しています。参加するのは20組の親子。申し込みが多くて、抽選をする状況。子どもは幼稚園、保育園世代の子どもをメインに、そのきょうだいの乳児から小学生まで。先月は、手のかたで家族の旗をつくり、草木をつかったた

たき染めでエコバッグ制作、マシュマロや
バームクーヘンを焼き、食べました。パー
ムクーヘンをくるくる回すのは大変！今月
は、カレー作り、フィンガーペインティング、
おやつはポップコーン作り。ポップコーン
の味付けで子どもたちにも一番人気があ
るのは「ほりにし」とカレー粉のブレンド。
「ほりにし」は私は知らなかったけど確か
においしい。クローズドグループで3回連
続なので、関係が深まり、子どもたちも、
保護者の方々もつながる。

他にも、同じようなプログラムで、参加
者をシングルマザー親子限定のこういっ
た事業もあるそう。そこでは、すぐ参加者
同士がつながり、ライングループが作られ、
日常にそのコミュニティが追加されるそう。
火起こし、火の番は人気で、火を見ている
だけで癒されるお父さんたち続出！ここでも、
いろんな家族の姿に出会う。次回も無
事に役割を果たしたい。

家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

障害者福祉援助論

P16~



荒木 晃子

原稿が遅々として進まない。本篇で伝
えたいこと、知ってほしいこと、協力してほ
しいことがたくさんありすぎて、うまく表現
できず苦しい時がある。そこに、無力感が
加わると全く身動きが取れなくなる。確か
に体力は衰えたものの、無気力ではないの
で更にたちが悪い。

もうに、最近向き合っている“子どもと
の家族形成に問題を抱えるあらたな当事
者性”に「圧倒されている」感是否めない。
そこ(彼ら)には、不妊心理に通ずるもの
があることは確認できている。しかし、“子
どもとの家族形成の問題”より以前から、

自分自身に起きている「心と体の不条理」
を受け入れられないことに端を発した「尽
きることのない怒り、憤り、不満、欠損感」
は不妊心理の比ではないように感じるの
は私だけだろうか。

かつて自分にあった「当事者であるが
故に尽きることの無い怒り、憤り、不満、
欠損感」は、近ごろ影を潜めている。今も
昔も変わることなく、不妊心理の援助者と
して、また家族形成支援の研究者として
私の原動力となっていることは疑う余地な
い。以前と異なるのは、普段の日々に、
緩やかで満ち足りた時間を過ごすことが
増えたこと。性格も多少まーるくなったか
なと感じることもある。もしかすると、これ
は「老い」の効果なのだろうか。であれば、
喜んで受け入れよう。

生殖医療と家族援助

p 252~

原田 希

大阪に住む姪っ子たちが思春期に入り、
気になる出来事が起こってきたタイミング
でたまたま見た番組。信頼できる人にひっ
ついて不安を和らげ安心したい本能的欲
求＝アタッチメントについて詳しく知りまし
た。姪っ子たちがそう出来る人が多方面
に居ることが大事だな。北海道で大きく手
を広げていつでもおいで！と言ってあげれ
るように、と思う叔母です。アタッチメント
でいうと、牛も同じで、初めて搾る時は体の
一部をピタッとくっつけ、だいじょうぶよ、と
言いながら作業します。傍目には蹴られ
ないかな？と心配な距離ですが、妙に距
離を取る方が牛に不安感を与えます。牛
の場合はベタベタに慣れすぎてもダメなの
ですが、ほど良くお互いが安心できる心地
いい距離感。どの世界でも大事ですね。

原田牧場Note

P184~

見野 大介

小学校デビューした息子が突然、夜は
一人で寝ると言い出して寝ようになった
ため、夜の残業タイムにも良い変化が。子
供の成長の早さに驚きと感謝を覚える今
日この頃です。

ハチドリの器

P4

柳 たかを

本誌に連載させていただいてきたストー
リー4 コマ「やぶにらみ日記」も前号(第 56
号)で終了、今号はエピローグとして青年
になってから経験した我がニューヨーク体
験を2回に分けてご覧いただきたいと思
います。

ところで「将来やりたい職業が見つから
ない」と悩みをもらす少なくない数の子ど
もの声を耳にします。私がかつて勤務した
芸大マンガコースを志望して入学して来た
若者は、マンガ家を目指すというより、「好
きなマンガキャラクターを描いて4年間を
過ごしたい」、卒業後は出来ればその経
験を活かせる仕事に就きたいという願い
を抱いている人が多かったです。卒業生
の中には見事に夢を実現しゲーム制作会
社に就職できたり、東京の有名出版社の
漫画雑誌にデビュー作品が掲載された人
もいましたが、実力があつたとはいえほん
の一握りの卒業生がつかめたラッキーな
人生切符。その親御さん達も可愛い我が
子の独り立ちを懸命に応援し、安くない入
学費・学費を工面された。「マンガなど描
いてうちの子が将来的に食べていけるの
か」、親としては他にやりたいことが見つ
からない我が子が「マンガなら好きなキャ
ラクターを描いて過ごせるなら」と漏らす声
にすがってみよう、そんな思いの家族が
多かったように… 私自身を振り返ってみ
ると、幼少期から将来の仕事は“マンガ家”
しか考えていなかった。高校生のとき、同
級生から「おまえはいいなあ 将来やりた
い事が決まっていって…」と言われました。
「一生好きなことをしていきたい」それが望
みで、それでお金を稼ぎたいとかの欲は
なかった。人生に成功の人生・失敗の人
生があるのかどうか、個人的には好きで
もないことをやり続ける人生は失敗の生き
方かもと思います。コツは「一つだけつか
んで離さず 他は捨てる」、それなら誰に
でも出来るのではないのでしょうか。

思い出ほろほろメモ

P127~

小池 英梨子

これは、長い長い言い訳です。今回は
短信のみで休載させていただきます。

「昨日の晩に、マンションの2階のベラ

ンダから飼い猫が逃げてしまった」という
搜索依頼がありました。現場に伺って痕
跡を探すと、マンションのフェンスとブロッ
ク塀の間に、猫の毛が付着していました。
毛の付着位置から、裏の会社のバックヤ
ードに入った事が分かりました。許可を得
て入らせてもらおうと、側溝の中、タイヤの
下に迷子の猫さんを発見することができま
した。結果、猫さんは無事に保護すること
ができたのですが、自分の右手首をガッ
ツリ噛まれてしまい、こちらは負傷(笑)。
まあ、よくあることだと放置していたところ、
めちゃくちゃ腫れてキーボードを打つのが
激痛…。いつも締め切りギリギリにしか書
き始めないのが悪いんですが、そんなわ
けで、今回は休載です。皆さん、猫に引っ
搔かれても大した事はありませんが、噛ま
れると、ばい菌の注射をされるような物な
ので、腫れたら内科に行ってお薬処方し
てもらいましょう。



そうだ、猫に聞いてみよう
休載